

## 第 36 回 東海村地域公共交通会議 会議録

【日 時】	令和 6 年 11 月 20 日(水) 10 時 00 分～10 時 45 分
【場 所】	東海村役場原子力視察研修室
【出席者委員】	出席 17 名(うち代理 1 名)／欠席 5 名

### 1. 開会

### 2. あいさつ

○萩谷会長

皆さん、おはようございます。本日は大変お忙しい中、第 36 回目となります東海村地域公共交通会議にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

また、本日お集まりの皆様方には、日頃より本村の地域公共交通の確保に向けてご尽力いただいておりますこと、この場をお借りいたしまして感謝申し上げます。

さて、本村では、令和 3 年 3 月に策定しました東海村地域公共交通計画に基づきまして、地域公共交通の維持確保に努めてまいりましたが、昨今の人口減少や高齢化、そして免許返納、移動の担い手不足等の深刻化に加えまして、コロナ禍の影響などによりまして、地域公共交通の維持確保は年々厳しい状況に置かれているところでございます。このような中で、国におきましては、令和 4 年度に「アフターコロナに向けた地域交通の『リ・デザイン』有識者検討会」における提言に即しまして、「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律」が改正されまして、地域の多様な関係者の「共創」により地域公共交通の再構築を進める取組が全国で広がりつつあります。

本村におきましても、将来を見据えた利便性、生産性、持続可能性の高い地域交通の現実現を目指しまして、諸課題の解決に向けて 1 つ 1 つ検討を重ねているところでございます。目下の取り組みとしましては、本日の報告案件でありますデマンドタクシーのAI配車システムの導入について現在進めているところでございます。デマンドタクシーあいのりくんは、平成 18 年度に運行を開始しまして、年間の利用が 4 万件前後と村民の生活の足として定着している一方で、人の手による配車調整や運航効率に課題を抱えている状況でございます。

来年 1 月からAI配車システムの運用開始ということで、様々な影響があるかとは思いますが、デジタル技術を活用したきめ細かい移動サービスの提供により、持続可能な地域公共交通ネットワークを構築につなげてまいりたいと考えておりますので、委員の皆様におかれましては、改めて本システムについて理解を深めていただき、率直なご意見を頂戴できればと思います。

以上、簡単ではございますが、私からの挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願い申し上げます。お願いします。

### 3. 報告 (1)公共交通の利用状況について(令和6年度上半期)

事務局から配付資料「公共交通の利用実績【令和6年度上半期】」「茨城交通(株)路線バス

年度別利用実績」「デマンドタクシー「あいのりくん」 年度別利用実績」に基づき説明。

(補足等)

【遠藤委員】

茨城交通から路線バスの利用状況について、簡単にご説明、補足させていただく。

今ご説明いただいたとおり、この上半期としては若干の利用者の増というところで、コロナ禍からの少しずつの回復というところが見られる。ただ、この春から運転手不足と働き方改革ということで、ダイヤの減便をさせていただいた。全体としては減便はしたものの、利用者は若干の増というところで、影響は最小限に抑えられているのかなという風に考えている。ダイヤごと、路線ごとに見ると、増加した路線、マイナスの路線というところがあるので、引き続き、下半期も利用者の動向を注視しながら、必要に応じてまた対応を講じてまいりたいと考えている。

【舩井委員】

私からは、この前お話ししたライドシェアの件を少し触れさせていただく。今年 9 月から水戸、ひたちなか市で日本版ライドシェアの運行が開始されている。タクシーが不足する地域や時間帯に限り、国が許可したタクシー事業者を実施主体で運行しているが、現在、水戸の事業者 3 社がタクシーの有休車両を用いて運行している。始まったばかりということで、週末はぼちぼちと動いているという情報が入ってきている。休んでいるタクシーを使うということは、ドライバーが足りていないということ。ドライバー不足については、市町村がデマンドタクシーのドライバーを募集しているところもあると聞いた。この東海村でも考えていただければ幸いである。

話は変わるが、来年 1 月から東海村デマンドタクシーも新たに AI 配車が始まる。先日の村報に、デマンドタクシーの記事が掲載されていたが、当組合員としましては、AI 配車システムに向け、ドライバーとのミーティングを実施している。ドライバーの声としましては、楽しみ半分、不安半分。来月 22 日に関係するドライバーの 1 日研修を行う。安心安全で運行できるよう努めていきたい。また、来年 4 月にハイヤー組合への直接委託になるので、変わらず交通弱者、村民の足になるよう、私たち関係者、オペレーター、ドライバーと共栄していき、より一層の地域公共交通、デマンドタクシーを目指していきたいと思う。皆様のご支援、ご協力をよろしくお願いする。

(質疑等)

【川崎委員】

年齢別の表があるが、そもそもデマンドタクシーは一般の方も利用できるのか。この 300 円と 100 円の差っていうのをちょっと説明していただきたい。

【事務局】

一般の方ももちろんご利用できる。一般の方が 300 円で、身体障がい者、精神障がい者、知的障がい者、要介護認定者、未就学児が 100 円で利用できる。

【川崎委員】

デマンドタクシーは高齢者の乗り物っていうイメージが非常に強かったが、そういうことはないと思理解した。私の知識不足なのか、一般の住民に対しての PR 不足なのか、ちょっとその辺は検

討した方が良いかもしれない。

【事務局】

平成 18 年度から運行しており、当初は村ホームページや広報とかで周知している。現在も村ホームページであいのりくん利用についてご案内しているが、定期的に広報で出してはいないので PR 方法は今後検討していきたい。

また、AI配車を導入するにあたり、高齢者の方に関しては、広報とかで周知をさせていただき、若い方々に向けては、予約の方法に LINE とかも活用しながら、毎年度継続してご利用の周知ができるようにしていければという風に考えている。

【松本委員】

デマンドタクシー利用者は登録というのが必要だったんじゃないかなと思っているが、登録しなくても、普通のタクシーと同じような使い方できるのか。。

【事務局】

現在の利用要件は、東海村に住民登録されている方を対象としている。登録には役場の窓口に来て申請書を書いていただき、産業政策課で住民登録の確認を行った後、利用登録証を発行している。

報告（2）デマンドタクシーAI配車システムについて

事務局から配付資料「AI配車システム導入に係る進捗状況」「新しい「あいのりくん」サービス概要とご利用方法」に基づき説明。

（質疑等）

【川崎委員】

村外は行けるか。

【事務局】

村外には行けない。アプリ上も選択できないようになっている。

【山田委員】

家族の方が代理で予約を入れるのは、今回の規約上はどのようなになっているのか。

【事務局】

要綱は今改正中だが、考えている表現としては、ご登録が必要な方はご予約を入れていただく方ですよという風に明記をする予定。例えばお母さんが子どもの代わりにご予約を入れる場合、お母さんに入れていただいて、実際、実際にご乗車いただくのはお子さんと、そういうことで構いませんよ、という風に変えさせていただければと思う。

【山田委員】

電話番号は複数登録できるのか。

【事務局】

電話番号はお 1 人につき 1 つ、システムの仕様上必要になる。

【山田委員】

そうすると、自宅の固定電話で登録されていた方は、それ以降アプリ、携帯からの予約申し込みはできないということか。

【事務局】

自宅の電話番号からでも予約できる。携帯をお持ちでない方は、どちらか 1 人のお名前でご登録をいただいて、実際にご利用いただくのはどちらでも構いません。ただ、ご登録いただいた方のご名義はお使いくださいという形になる。

【山田委員】

一度登録すると、その人が今度は自宅からの電話でなくてアプリで登録しようと思っても、そこは違う名義で登録し直さないといけないということか。

【事務局】

基本的にはそういった形となる。この名義を書き換えてくれと申請いただければ、そのように対応させていただく。

【山田委員】

ちょっとややこしいんで混乱しないように。できるだけ固定電話で登録しないで、携帯使える人は基本的に携帯だとか、携帯持たなくても、家族の自宅の固定じゃなくて家族の携帯でまず登録してもらうとか、ちょっとそこは運用がスムーズに行くように工夫された方がいいんじゃないかなと思う。

その他 ①

事務局から配付資料「落書きバスの実施について」に基づき説明。

その他 ②

【白石委員】

私からは、今福祉部で検討、研究を進めております、デイサービス共同送迎事業について情報提供の方させていただければと思う。

現在福祉部において、公共交通と福祉分野の連携した取り組みを検討したいということで、新たな足の確保につながるデイサービスの共同送迎事業の検討を行っている。この事業は、現在デイサービスが個別に車両を保有して送迎事業を行っているが、それらを村で一括してタクシー会社に委託をすることで効率的に送迎を行うようにしたいという風に考えているもの。人材不足で悩む介護事業所の負担軽減とタクシー会社の安定経営につなげていきたいと考えている。今まだ検討段階なので、実施体制等は固まっていないが、最終的にはこの仕組みを利用して、他の福祉サービス(障害など)への波及や、新たな足の確保にも繋げていきたい。まだまだ検討中というところだが、まずは皆様に、こういった検討してるんだよっていうところを情報提供させていただく。

4. 閉 会